

第 2 回香川地域継続検討協議会 議事録

【日 時】 平成 24 年 10 月 12 日（金） 13：00 ～ 14：30

【場 所】 香川大学幸町キャンパス 生涯学習教育研究センター 第 1 講義室

〈配布資料〉

香川地域継続検討協議会規約 改正案

[資料 1] : 議事関係資料

[資料 2] : 第 1 回香川地域継続検討協議会 議事録

[資料 3] : 香川地域継続検討協議会勉強会 開催予定と意見交換メモ

[参考資料 1] : 防災拠点のネットワーク形成

[参考資料 2] : 地域インパクト分析 (DIA) システム案

〈議事内容〉

1. 趣旨説明

香川大学危機管理研究センター長 白木教授より、香川地域継続検討協議会の趣旨説明を行った。

2. 協議会規約、構成員の確認

香川大学危機管理研究センター長 白木教授より、香川地域継続検討協議会規約 改正案を用いて、協議会規約、構成員の説明を行った。

3. 議事

(1) 協議会運営報告

香川大学危機管理研究センター 磯打特命准教授より、資料 2 を用いて第 1 回香川地域継続検討協議会の議事要旨の説明があった。また、資料 1 を用いて協議会の運営について報告があった。

(2) 年度計画

香川大学危機管理研究センター 磯打特命准教授より、資料 1 を用いて年度計画についての説明があった。また、参考資料 1 を用いて基幹的広域防災拠点候補地調査の説明があった。さらに、香川大学危機管理研究センター 高橋特命助教より、参考資料 2 を用いて地域インパクト分析 (DIA) 支援システム案の説明があった。

各委員の意見は以下のとおりである。

○意見交換

＜西日本高速道路株式会社＞

- ・防災拠点となりうる施設としては高速道路の SA があり、四国のモデルケースとして、高知道の南国 SA を防災拠点化する事業を行っている。今後、防災拠点の拡大を進める予定としている。

＜四国ガス＞

- ・DIA 支援システムでは、各企業の情報を掲載することを想定しているか。

＜会長＞

- ・基本的には公開情報のみとし、個人情報や非公開の情報については想定していない。

＜NTT ドコモ四国支社＞

- ・防災拠点の検討においては、防災車両の駐車場所の確保について考慮いただきたい。
- ・DIA 支援システムでは、発災後に、衛星電話・携帯電話の貸し出し情報等を掲載できればよいのではないかと考える。

<会長>

- ・DIA 支援システムでは事前の分析結果を踏まえ、発災後の対応にも活用できればよいと考える。

<西日本電信電話>

- ・防災拠点の検討と併せて、特設公衆電話の設置の可否についても、検討しておく必要がある。
- ・DIA 支援システムには内部情報を掲載することは現時点では難しいと思われる。

<四国電力>

- ・DIA 支援システムに、発災時の情報共有機能があればよいと思う。

<高松商工会議所>

- ・DCP へは、各事業所との仲介役として貢献できればと思う。

<会長>

- ・災害時の各事業所との連携について現在検討されているか。

<高松商工会議所>

- ・特に検討していないのが現状である。

<坂出市>

- ・坂出市は瀬戸大橋、番の州エネルギー拠点、重要港湾の坂出港が立地しており、香川地域にとって重要な防災拠点であると考えている。しかし、番の州のコスモ石油は2年後の撤退を表明しているということもあり、地域の動向を注視して、検討を進めたい。
- ・DIA 支援システムについては、現在、香川県でも防災情報システムが検討されているため、それらの互換性を考慮していただきたい。

<会長>

- ・考慮して、検討を進める。

<高松市上下水道局>

- ・DIA 支援システムにすべての情報を集約するのは現実的でないので、システムの対象範囲を明確化した方がよいと思われる。

<会長>

- ・地域継続、地域継続拠点に関する戦略を議論するために必要な情報を掲載することを想定している。

<高松市総務局>

- ・発災時の情報共有に使用するシステムとしては、香川県の防災情報システムが検討されている。発災時に避難所の対応をしながらシステムに情報入力をするのは難しいため、システム検討の際には、併せて入力体制についても検討すべきである。
- ・発災時の情報連絡手段の整備についても、本協議会で検討していただきたい。

<会長>

- ・連絡手段整備、システムへの情報入力体制の検討についても、重要と考えている。

<香川県土木部>

- ・防災拠点やネットワークについては、県でも検討中である。
- ・DIA 支援システム構築の際には、社会インフラに関するデータ提供は可能である。

<香川県危機管理総局>

- ・DIA 支援システムはDCP 作成のためのシステムと考えてよいか。

<会長>

- ・事前の合意形成、重要路線・拠点の評価支援を第一目的と考えている。発災時の被災パターンについては、事前に複数案検討しておきたい。

<気象庁>

- ・南海トラフの巨大地震では、高知県、徳島県は甚大な被害となり、気象台で業務を継続することが困難となる。このため、中部圏で提案されているような基幹的防災拠点が各県に設置

できれば、気象台としても防災拠点に駆けつけて防災気象情報の発信を行えることができるので四国においても是非とも検討をお願いする。香川県に基幹的広域防災拠点を設置することは、気象台においても高松が四国の予報中枢としての業務を行なっていることから問題ないとする。

- ・DIA 支援システムの地域インパクト分析支援システムは、地域防災計画に公表されているデータを整理するだけでも非常に役立つものとする。

<国土地理院>

- ・代替拠点の検討に役立てたい。
- ・DIA 支援システム構築の際には、電子国土基本図を背景図として活用していただきたい。

<会長>

- ・システム構築段階で、ぜひ協力をお願いしたい。

<四国運輸局>

- ・海運、鉄道、トラック、バスや物流事業等を所管している運輸局として、中国地方や各県も含め、物流拠点の検討を実施している。徳島県、高知県への支援拠点の検討は平成 23 年度に実施し、非常電源、通信機能のある事業所を選定し、対応する方針としている。
- ・緊急物資の供給についても DIA 支援システムに組み込んで検討いただきたい。

<会長>

- ・瀬戸大橋のアプローチ道路周辺では火災が想定されるため、港湾・空港の活用が想定されている。各機関の検討との整合を考慮しながら、DIA 支援システムの検討を実施する予定である。

<四国地方整備局 防災課>

- ・四国地方整備局でも各機関の利用拠点を選定する予定である。特に、道路ネットワークを重要と考えている。本検討会とも連携しながら、拠点を検討したいと考えている。
- ・DIA 支援システムの対象範囲は、DCP 策定段階としてほしい。整備局で別途、災害時の情報共有システムを構築中であるため、複数構築してしまうと更新ができなくなる恐れがあると考えている。

<四国地方整備局 広域計画課>

- ・DIA 支援システムでは、優先エリアの選定が難しいのではないかと考えている。様々なシミュレーションをして、検討していただきたい。

<会長>

- ・事前のシミュレーションツールとして活用していきたい。

<四国厚生支局>

- ・DIA 支援システムについて、情報は絞ってもいいので各機関が重要業務を判断する上で、シンプルでわかりやすいものとしていただきたい。

<四国総合通信局>

- ・香川県のみならず、四国全体が利用できるものを検討いただきたい。

<会長>

- ・本日の各構成員からの意見を踏まえて、検討を進めたい。

4. 今後の予定

香川大学危機管理研究センター 磯打特命准教授より今後の予定について、説明があった。

- ・第 3 回協議会の日程は、12 月下旬を候補として調整の上、案内する。

以上